

スポーツ・サイエンス・インスティテュート (SSI)

I 2019 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2019 年度大学評価結果総評】 (参考)

SSI の取り組み全体として、優秀な競技成績を収めつつ、専門的学業を続ける学生たちにとって、より適切かつ効果的な環境作りに継続的に努めている点は評価できる。今年度も「教育課程・学習成果」と「教員・教員組織」のそれぞれの領域において、多様な学部へ所属するアスリート学生たちへの適切な対応が模索され続けている。さらなる成果に期待したい。

ただ、単年度の課題というよりも、継続的な課題として①学生へのアンケート（授業改善のもの、4年生向けのもの）の利用、②スポーツ健康学や各学部との科目配置の係り・連携の方法、③カリキュラムツリーにおける各学部専門科目との関連性の検討・改善を進めることが重要と考えられる。その場合、前年度の成果、評価点を検証しつつ具体的な達成目標が設定されることが望まれる。特に③については、学部主催科目にはより具体的に例示したり、体系的だけでなく順次性も視覚化したりするなど、さらなる具体的な改善について記述されることが望まれる。

今後とも、より適切な教育・教員組織に向けた取り組みを実現するためにも、SSI と所属学部との兼務によって極めて多忙な状況の中で、持続可能かつ効果的な体制作りが望まれる。

【2019 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2019 年度は概ね年度目標に沿った取り組みを行うことができた。今年度も中期目標に準拠して、継続的な取り組みを進める。特に指摘された継続的課題のうち、

①については、継続して行ってきた学生を対象としたアンケート（4年生向けを含む）を実施し、得られた結果（学生の学習状況や授業改善点など）を集計分析し、運営委員会において議題に取り上げ、その活用方法について審議する。その結果を踏まえ SSI 参加学部から選出されている運営委員（1号委員）を通じて、学部教授会と連携する方策の検討を継続して進める。

②については、SSI 参加学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として抽出してもらえよう引き続き働きかける。また昨年も実施した「オリンピック・パラリンピックを考える」の科目に、スポーツ健康学部教員やスポーツ研究センターの署員に講師として登壇してもらえよう促すことで、連携を図る。

③については、各学部から抽出してもらっている専門科目を SSI のカリキュラムマップ・ツリーに沿って、その関連性を順次性を含めて検討を進める。

ただし、これらの取り組みは、専任教員を持たない SSI においては、執行部や特定の教員の過負荷にならないよう、限られたマンパワーを持続可能な活力にする工夫も、今後検討課題として取り上げていく必要がある。

なお、以上は平常時を想定した記述であり、今年度は新型コロナウイルス感染症対応のため、様々な制約を受けることが余儀なくされる。そのため柔軟かつ適切な対応について執行部を中心として検討していく。

【2019 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

SSI の 2019 年度大学評価結果総評では、①学生へのアンケートの利用、②スポーツ健康学や各学部の科目との連携、③学部専門科目との関連性、の 3 点について検討と改善を進めるように指摘がなされたが、各項目において具体的な達成目標が示されたことは評価できる。専任教員を持たない SSI では、特定の教員に負担が集中しないように配慮しながら、SSI 参加学部や、スポーツ健康学部・スポーツ研究センターとの連携を深化させる継続的な取り組みを実施することが期待される。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2020 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

これまで限られた総コマ数の中で、SSI 生に対して幅広い教育内容に触れる機会を提供するために、SSI カリキュラムポリシーに基づいて、2015 年度にカリキュラム改定を行った（教育内容を整理・集約することで戦略的に総コマ数のゆとりを作った）。

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>2016年度第4回運営委員会、2017年度第1回運営委員会において、SSI所属学部が学部主催科目をSSI専門科目に公開できるようSSI参加学部へ依頼した。本件については、2020年度も引き続き参加学部に対して、SSIカリキュラムポリシーに沿った科目の拠出を依頼していく。</p> <p>SSI学生の特殊性を考慮した「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」について、2017年度に具体的な内容や評価方法などが議論され、2018年度から開講された。その結果、全ての競技に取り組むSSI学生が履修できるようになり、科目履修の平等性が確保された。</p>	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>日本スポーツ協会が公認するスポーツ指導者制度の改定に伴い、本インスティテュートのカリキュラム変更に向けた検討を開始する。</p>	
<p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等。</p> <ul style="list-style-type: none"> SSI履修要項・講義概要（シラバス） 2016年度第4回SSI運営委員会議事録 2017年度第1回SSI運営委員会議事録 2017年度第4回SSI運営委員会議事録 	
②初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>SSIの学生は各学部へ所属しているため、各学部で行われている初年時教育に参加している。SSIにおいては、SSI基礎科目として開講されている7つの必修科目や「スポーツ学入門」などが初年次教育の役割を果たしている。また2018年度より開講された科目である「オリンピック・パラリンピックを考える」については、高大接続として3つの付属高の生徒に公開されている。</p>	
<p>【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 	
③学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S A B
<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>キャリア教育に関しては、ILAC科目ゼロ群に置かれた全学共通の公開科目である「キャリア教育プログラム」科目の利用のほか、SSI学生が所属する各学部において行われているキャリア教育を受けている。またSSI独自に提供しているキャリア教育関連科目としては、「アスリートキャリア論」「アスリートのキャリアマネジメント」などが開講されている。</p>	
<p>【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> SSI履修要綱、講義概要（シラバス） 	
<p>1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S A B
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 例年、大学入学前の3月末に、SSI新入生を対象にSSIガイダンスを行っている。 SSI学生が所属する学部によっては、年度当初に行われる学部・学科ガイダンス終了後、学部所属SSI学生を対象に履修方法などについて、SSI関連のガイダンスを行っている。 2020年度については、SSI新入生ガイダンスを、大学が提供する「学習支援システム」を通じてオンライン（オンデマンド形式）で行った。 	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>本来、例年通り大学入学前の3月末にSSIに所属する全学生を対象にSSIガイダンスを行う予定であったが、本年度は新型コロナウイルス感染防止のため、急遽「学習支援システム」を通じたオンラインにより、ガイダンスを行うことになった。ガイダンスはMicrosoft PowerPointで作成した資料に沿って、音声ファイルによる説明を加え指導を行った。履修</p>	

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

に関して、「学習支援システム」を活用できていない学生が多く認められたため、数回に渡って、監督・部長を通じて、履修に関する情報発信を行った。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・新入生の SSI ガイダンスへの参加について (お願い)
- ・SSI ガイダンスの開催について (ご案内)
- ・SSI 履修のポイント (カリキュラム委員作成)

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

S A B

※取り組み概要を記入。

例年、新年度が始まる直前の3月末ごろに SSI 新入生ガイダンスを行い、その中で履修のポイントや大学における授業の必要性、学業と体育会活動の両立など、修学上の注意事項を執行部の教員を中心に説明している。しかし、新型コロナウイルスの影響を受けて、今年に関しては、大学ホームページを通じて、動画ファイル、音声ファイル、履修の手引きなどを用いて説明した。

SSI 学生は、授業実施日に公式戦が開催されることがあり、授業を欠席せざるを得ない場合がある。その際には、大学の公式書類である「競技参加による欠席願い」を授業担当教員に提出するよう、SSI ガイダンス、各学部・学科のオリエンテーション・ガイダンスにおいて指導している。

授業担当教員は、当該学生の教育機会を保障するために、「学習支援システム」を利用した資料配布や課題の設定などを行っている。また「学習支援システム」を十分活用できるようにするために、必要に応じて SSI 生が所属する各部部长・監督のメーリングリストを用いて、情報周知を図るよう促している。

成績不振者に対しての指導については、運営委員会およびFDミーティングで情報を共有して対応している。対象学生の所属学部においても、学部独自のルールに従って、面談や学習指導を行っている。今後は必要に応じて情報共有を行い、より一層学部と協力して学習のサポートを行うよう検討する。

【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各授業の授業支援システムのホームページ

③学生の学習時間 (予習・復習) を確保するための方策を行なっていますか。

S A B

※取り組み概要を記入。

全ての授業において授業外に行うべき学習活動 (準備学習など) が指示されており、その内容はシラバスによって周知されている。授業に使用する資料やレジュメなどを「学習支援システム」を通じて事前に配布し、準備学習を行うよう促している。

「学習支援システム」を活用できるようにするために、教員各々の授業の中で「学習支援システム」の使い方を解説している。本システムを十分活用できていない学生が認められた場合は、SSI 生が所属する各部部长・監督のメーリングリストを用いて、情報周知を図るよう促している。

「学習支援システム」を利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業が行われている。

【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各授業の学習支援システムのホームページ
- ・SSI 履修要項・講義概要 (シラバス)

④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。

S A B

【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入 (取組例: PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等)。

- ・いくつかの授業では、「ワールドカフェ」や「クロスロード」などのアクティブラーニングを採用している。
- ・テーマを与えて、グループ・ディスカッション、ディベート、グループワークなどのアクティブラーニングが実践されている授業もある。
- ・「学習支援システム」などを利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業を行っている。

【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各授業の学習支援システムのホームページ ・SSI 履修要項・講義概要（シラバス）	
⑤それぞれの授業形態（講義、実習等）に即して、1 授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※どのような配慮が行われているかを記入。 SSI は学生数に対して開講できる総コマ数が少ないため、受講者が教室の定員を超える場合が考えられる。現在は SSI 参加学部から SSI カリキュラムポリシーに沿った科目の提供を受けているため、若干のゆとりが確認できている。今後はさらに参加学部へ依頼して科目数の増加を目指す努力を行う。 一方で、スリム化対象となる過小人数受講者の授業もみられるため、全体的なバランスを考えて検討する必要がある。	
【2019 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・SSI 履修要項・講義概要（シラバス）	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・運営委員会において、全学及び SSI の GPCA 平均集計表を配布している。 ・運営委員会や FD ミーティングにおいて、成績評価方法に関する意見交換を行っている。	
【2019 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・GPCA 平均集計表（全学と SSI）	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布の状況を把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。 ・運営委員会において、全学及び SSI の GPCA 平均集計表を配布している。 ・運営委員会や FD ミーティングにおいて、成績評価方法に関する意見交換を行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・GPCA 平均集計表（全学と SSI）	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。 ・競技に専門的に取り組んでいる SSI 学生の特徴を踏まえた学習方法の検討を行い、2018 年度より開講した「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」の単位認定方法や受講生が提出する申請書や報告書に反映させている。	
【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2017 年度第 4 回運営委員会議事録	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。 卒業を間近に控えた 4 年生を対象に「SSI 卒業予定者向けアンケート」を実施している。このアンケート内で、SSI 主催科目に関するアンケートを行い、各授業の内容に関する具体的な回答を得ている。これらの結果は、執行部で集約し運営委員会において委員にフィードバックを行い、意見交換を行っている。	
【2019 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ SSI 卒業予定者向けアンケート集計結果	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学習成果を組織的・定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。 教育課程およびその内容、方法の適切性については、執行部を中心とした、主にカリキュラム委員によって定期的に点検・評価を行っている。同時に質保証委員によっても点検・評価を行っている。その他、SSI 主催科目担当教員によって、定期的に FD ミーティングを行っており、カリキュラム編成や授業実施方法の改善や向上について意見交換を行っている。	
【2019 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 特になし	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※利用方法を記入。 ・ 授業改善アンケートの結果の利用は、主に担当教員に委ねられているものの、SSI 執行部がアンケート結果をチェックし、問題点の洗い出しのスクリーニングを行っている。 ・ 質保証委員がシラバスチェックを行い、シラバスの表現方法や不足分について、正確に記載するよう担当教員に促している。	
【2019 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 各授業のシラバス	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・ 特なし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・ 特になし	

【この基準の大学評価】

教育課程・教育内容については、SSI 参加学部に対して、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目抛出の依頼が継続的に行われている。「オリンピック・パラリンピックを考える」を、3つの付属高の生徒に公開するかたちで開講しているのは、高大接続への配慮として優れている。キャリア教育としては、SSI 独自に、「アスリートキャリア論」等の複数の科目を開講している。 学生の履修指導について、多くの学生が「学習支援システム」を活用できていない実態を把握し、数回に渡って履修に関する情報発信を行ったことは評価できる。成績不振者に対しては、運営委員会およびFDミーティングで情報を共有しながら指導を実施している。授業を欠席した学生や、復習を希望する学生に対しては、「学習支援システム」を利用して動画を提供する授業が行われている。 具体的な学習成果を把握・評価するための方法として、卒業間近の学生たちを対象に、SSI 主催科目に関するアンケートを実施し、運営委員会において教員にフィードバックを行っているのは、優れた取り組みである。

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

2 教員・教員組織

【2020年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部(学科)等内のFD活動は適切に行なわれていますか。 S **A** B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・カリキュラム委員および質保証委員によって、FD活動に関する検討を定期的に行っている。
- ・質保証委員会を設置し、執行部と連携をとりつつ、FD推進センターの取り組みも踏まえた活動を進める体制を整えている。
- ・全てのSSI主催科目のシラバスチェックを質保証委員が行い、改善すべき点がある場合は、授業担当教員に対して直接改善を求めている。
- ・2019年度は第2回、第4回運営委員会終了後にFDミーティングを行い、授業に関する問題点やその改善方法、今後の課題についてなど意見交換を行った。

【2019年度のFD活動の実績(開催日、場所、テーマ、内容(概要)、参加人数等)】※箇条書きで記入。

- ・第1回FDミーティング(2019年7月29日) BT25階C会議室:出席状況の確認など
- ・第2回FDミーティング(2020年3月9日) BT25階C会議室:2019年度授業の振り返りなど

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・SSI科目シラバス原稿の手引き続き
- ・法政大学シラバスWEB入稿システム教員向け入稿ガイド
- ・SSIシラバスに関する疑義・指摘

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし。	

【この基準の大学評価】

SSIでは、カリキュラム委員や質保証委員によってFD活動に関する検討を定期的を実施するだけにとどまらず、運営委員会終了後にFDミーティングを行い、授業に関する問題点やその改善方法、今後の課題等について意見交換を実施している点は、評価できる。質保証委員は、全てのSSI主催科目のシラバスチェックを行い、改善すべき点がある場合は、授業担当教員に対して直接改善を求めている。SSIのFD活動は適切に行なわれていると評価できる。

III 2019年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	・SSI質保証委員会を設置し、実効的な内部質保証の仕組みを構築する。
	年度目標	・18年度に設置されたSSI質保証委員会を開催する。
	達成指標	・SSI質保証委員会を開催する。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
	自己評価	S
	理由	質保証委員により、運営委員会後に質保証委員会を開催して、シラバスの点検作業等を行った。また運営委員会において、科目責任者を置くようにした。
	改善策	—

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
2	中期目標	・SSI 専門科目のうち、各学部が主催する科目（学部主催科目）の数を増やす。	
	年度目標	・各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえよう、各学部に働きかける。	
	達成指標	・各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえよう、運営委員会で1号委員を中心に意見交換を行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		運営委員会においてアナウンス及び情報交換を行った。	
改善策	—		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
3	中期目標	・学生アスリート（競技に専門的に取り組んでいる学生）に即した学習方法を検討し、検討した結果を授業担当教員に周知する。	
	年度目標	・18年度に引き続き、学生アスリートに即した学習方法を検討する。	
	達成指標	・FD ミーティングにおいて、2号委員（SSI 科目を担当する教員）で意見交換を行い、競技に専門的に取り組んでいる学生に即した学習方法を検討する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		FD ミーティングにおいてスケート部の学生を事例にしたオンライン教育について検討した。	
改善策	—		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
4	中期目標	1. 学生の競技活動の経験を実践知へと昇華させるための手法を検討する。 2. 各学部内において、SSI 生の学習に関する現状を共有してもらう。	
	年度目標	1. 学生アスリートの学習状況を把握する。 2. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。	
	達成指標	1. FD ミーティング等において、学生アスリートの学習状況を把握する。 2. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		2号委員によるFD ミーティングやカリキュラム委員会において、各授業の状況等の情報交換を行い、運営委員会においては全学及びSSIのGPCA平均集計表を配布して学部間の差異等情報共有を行った。	
改善策	—		
No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	1. SSI 運営委員会規程を実態に沿うよう改定する。 2. 多様な学部にも所属する教員が協同しつつ、安定的に運営することが可能な SSI の教員組織のあり方を探索する。 3. スポーツ研究センターおよびスポーツ健康学部にも所属する教員との連携を強化する。	
	年度目標	1. 改定が承認された SSI 運営委員会規程を学部長会議に上程する。 2. 専任教員の SSI 主催科目の担当状況を把握する。 3. SSI との連携を促進してもらえよう、スポーツ研究センター運営委員会に依頼する。 4. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえよう依頼する。	
	達成指標	1. 運営委員会において、改定が承認された SSI 運営委員会規程を学部長会議に上程する。 2. 運営委員会において、専任教員の SSI 主催科目の担当状況を把握する。 3. SSI との連携を促進するよう、スポーツ研究センター運営委員会執行部に依頼する。 4. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえよう依頼する。	
	年度末	教授会執行部による点検・評価	

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	報告	自己評価	S	
		理由	1. 運営委員会において、数回確認作業を行い、運営委員会規定を上程することができた。 2. 専任教員の科目担当状況は、運営委員会での資料配布によって確認された。 3. スポーツ研究センター執行部と連携した結果、SSI 主催科目において、スポーツ研究センター所長・副所長が外部講師として登壇した。 4. SSI 主催科目において、スポーツ健康学部の教員が外部講師として登壇した。	
		改善策	—	
No	評価基準		学生支援	
6	中期目標		1. SSI に乗り入れている各学部や体育会各部との連携を深める。 2. 各学部において、学生を対象としたアンケートの集計結果等を共有してもらう。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスの充実を図る。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する。	
	年度目標		1. SSI に乗り入れている各学部が、教授会等において、SSI 運営委員会の報告・審議内容を共有する方策を検討する。 2. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスに先進的に取り組んでいる学部の事例を集積し、共有する。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 5. SSI 生用ラーニング・サポーター制度を実施する。	
	達成指標		1. SSI に乗り入れている各学部が、教授会等において、SSI 運営委員会の報告・審議内容を共有する方策について、1号委員（各教授会から選出された委員）、執行部、または、学務部の各学部担当から情報を収集する。 2. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 3. 運営委員会において、SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスに先進的に取り組んでいる学部の事例を集積し、共有する。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 5. SSI 生用ラーニング・サポーター制度を実施した結果について検討し、次年度以降の活用可能性について検討する。	
		教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
	年度末報告	理由	1. 運営委員会において、情報を収集した。 2. 運営委員会において、検討を行った。 3. 運営委員会において、文学部の事例を紹介し、学部ごとに現状を報告（社会学部や経済学部、経営学部等では独自に行った等）し、意見交換を行った。 4. 大学スポーツ協会（UNIVAS）の関連事業に関わる中で、カリキュラムを構成する科目群の調整を行った。 5. 運営委員会において、検討を行った。	
	改善策	—		
No	評価基準		社会連携・社会貢献	
7	中期目標		・ 関連部局と連携して、履修証明プログラムへの参画を検討する。	
	年度目標		・ 参画が決定した履修証明プログラムの実施・運営をする。	
	達成指標		・ 参画が決定した履修証明プログラムの実施・運営をする。	
		教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
年度末報告	理由	実施初年度となる19年度は3名の受講者を受け入れ、各受講者から高い満足度を得ることができた。		
	改善策	—		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>【重点目標】</p> <p>1. 改定が承認された SSI 運営委員会規程を学部長会議に上程する。</p> <p>2. 全学的な取り組みである履修証明プログラムの開講を実施する。</p> <p>3. 授業のスリム化対象外科目をゼロにする。</p>
<p>【年度目標達成状況総括】</p> <p>SSI 運営委員会規定については、運営委員会において数回の確認を行った上で、最終的には学部長会議に上程し、20 年度に執行が決定した。また全学的な取り組みである履修プログラムについては、関連部局との連携により、いち早く実現することができた。授業のスリム化対象科目についてはゼロを目指したが、科目担当者の変更や他の必修科目とのバッティング等もあり、19 年度は受講者 10 名以下の科目が 5 科目出現した。既に授業時間の変更等の対応については、運営委員会において行っている。</p>

【2019 年度目標の達成状況に関する大学評価】

<p>SSI で 2019 年度の重点目標として掲げられた、①SSI 運営委員会規程の学部長会議上程、②履修証明プログラムの開講、③スリム化対象外科目をゼロにする、の 3 点のうち、①②は達成された。履修証明プログラムでは、3 名の受講者を受け入れて、各受講者から高い満足を得ることができた点は評価できる。③については、科目担当者の変更や他の必修科目とのバッティング等もあり、受講者 10 名以下の科目が 5 科目あったが、授業時間の変更等によって対応する取り組みが既になされている。</p> <p>他学部主催科目の SSI 専門科目としての公開とその量的拡大は経年の課題であるが、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供するように各学部へ依頼する働きかけは、今年度も継続的に実施された。スポーツ研究センターやスポーツ健康学部との連携に関しては、SSI 主催科目に同センター・同学部スタッフが外部講師として登壇した。</p>

IV 2020 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	・ SSI 質保証委員会を設置し、実効的な内部質保証の仕組みを構築する。
	年度目標	・ 本年度、新たに SSI 質保証委員会を編成（新委員を選出）し、同委員会を開催する。
	達成指標	・ SSI 質保証委員会を開催する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	・ SSI 専門科目のうち、各学部が主催する科目（学部主催科目）の数を増やす。
	年度目標	1. 19 年度に引き続き、関連学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえるよう、各学部へ働きかける。 2. 日本スポーツ協会が公認するスポーツ指導者制度の改定に伴い、本インスティテュートのカリキュラム変更に向けた検討を開始する。
	達成指標	1. 各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえるよう、運営委員会で 1 号委員を中心に意見交換を行う。 2. SSI 主催科目を担当する専任教員を中心に意見聴衆を行い、カリ変に向けたプロセスを運営委員会で検討、共有する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
3	中期目標	・ 学生アスリート（競技に専門的に取り組んでいる学生）に即した学習方法を検討し、検討した結果を授業担当教員に周知する。
	年度目標	・ アクティブラーニングの導入を模索する。
	達成指標	・ 科目の特性や担当教員の意向を確認し、導入が必要、可能な科目を洗い出す。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
4	中期目標	1. 学生の競技活動の経験を実践知へと昇華させるための手法を検討する。 2. 各学部内において、SSI 生の学習に関する現状を共有してもらう。
	年度目標	・ 19 年度に引き続き、以下に取り組む。 1. 学生アスリートの学習状況を把握する。 2. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。

※注 1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	達成指標	1. FD ミーティング等において、学生アスリートの学習状況を把握する。 2. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	1. SSI 運営委員会規程を実態に沿うよう改定する。 2. 多様な学部にも所属する教員が協同しつつ、安定的に運営することが可能な SSI の教員組織のあり方を探索する。 3. スポーツ研究センターおよびスポーツ健康学部にも所属する教員との連携を強化する。
	年度目標	1. SSI との連携を促進してもらえよう、スポーツ研究センター運営委員会に依頼する。 2. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえよう依頼する。 3. オンライン授業への対応に関する各種情報を収集し、必要に応じて支援策を講じる。
	達成指標	1. SSI との連携を促進するよう、スポーツ研究センター運営委員会執行部に依頼する。 2. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえよう依頼する。 3. オンライン授業への対応に関する各種情報を提供してもらい窓口を設置し、執行部内で適宜共有・検討する。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	1. SSI に乗り入れている各学部や体育会各部との連携を深める。 2. 各学部において、学生を対象としたアンケートの集計結果等を共有してもらう。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスの充実を図る。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する。
	年度目標	1. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 2. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 3. オンライン授業への対応に当たって必要な情報を適宜発信する。
	達成指標	1. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 2. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 3. SSI 生が所属する各部部长・監督のメーリングリストを用いて、情報周知を図る。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	・ 関連部局と連携して、履修証明プログラムへの参画を検討する。
	年度目標	・ 19 年度に引き続き、参画が決定した履修証明プログラムの実施・運営をする。
	達成指標	・ 参画が決定した履修証明プログラムの実施・運営をする。
<p>【重点目標】</p> <p>・ 日本スポーツ協会が公認するスポーツ指導者制度の改定に伴い、本インスティテュートのカリキュラム変更に向けた検討を開始する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <p>1. SSI 主催科目を担当する専任教員を中心に意見聴衆を行い、カリ変に向けたプロセスを運営委員会で検討、共有する。 2. カリキュラムポリシーに沿った新カリキュラムを検討する。 3. カリキュラム検討委員会を組織する。</p>		

【2020 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

2020 年度の中期目標・年度目標では、「日本スポーツ協会が公認するスポーツ指導者制度の改定に伴い、本インスティテュートのカリキュラム変更に向けた検討を開始する。」との年度目標が新たに追加されて、2020 年度の重点目標としても掲げられた。そのための施策は、適切性と具体性を満たしている。2020 年度の中期目標・年度目標では、アクティブラーニングの導入や、オンライン授業への対応にかかる文言も追加された。

専任教員を持たない SSI では、人的リソースに限られるとの事情は理解できるものの、しかし、年度目標において、いまだに質保証委員会の開催そのものが年度目標や達成指標とされたり、年度目標と達成指標に同一の文言が記されたりする点は、適切性の観点から問題がある。今後の改善が望まれる。

学生の学習指導に関して、SSI 生が所属する各部部长・監督のメーリングリストを用いた指導によって、学習支援システムの利用がどのように促進されたか年度末に評価するなどの質保証の検証をお願いしたい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【大学評価総評】

優秀な競技成績を収めつつ、専門的学業を続ける学生たちを対象とする SSI において、アスリート学生たちの実態をふまえながら、履修指導・学習指導においてきめ細かな対応がなされている点は、とくに高く評価できる。卒業間近の学生たちを対象に、SSI 主催科目に関するアンケートを実施し、教員にフィードバックを行っているのも、優れた取り組みである。高大接続やキャリア教育も適切に実施されている。

教育課程・教育内容に関しては、各学部で SSI 専門科目を提供するように依頼する働きかけは、今年度も継続的に実施された。スポーツ研究センターやスポーツ健康学部との連携は、一定の成果を得ている。SSI 参加学部や、スポーツ健康学部・スポーツ研究センターとの連携を進展される取り組みについては、継続的な粘り強い努力を期待したい。

ただし年度目標において、委員会の開催そのものを年度目標や達成指標としたり、年度目標と達成指標に同一の文言を記したりする点については、改善が望まれる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

連帯社会インスティテュート

I 2019年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2019年度大学評価結果総評】（参考）

連帯社会インスティテュートの教育内容については、コースワークとリサーチワークが適切に設定されている。「連帯社会とサードセクター」、「サードセクター協働論」が特色ある科目として、評価される。教育方法では、カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーに基づき、学生の履修指導が適切に行われている。研究指導計画に基づく、学生の研究報告（1年次に2回、2年次に2回）と、それに対する指導が高く評価される。成績評価と単位認定は適切に行われている。

連帯社会インスティテュート独自のアンケート調査を実施し、FD活動は適切に行われている。

2018年度目標の達成状況について、重点目標の「学生の受け入れ」において、NPOプログラム入学者の数値目標を達成した。2019年度中期・年度目標について、重点目標が「学生支援における学習支援」に変更された。社会人学生の支援に関して、前年度と同様、目標達成を期待したい。

外国人学生の受け入れ、兼任講師からのフィードバックの活用、学習成果の測定指標の導入、学習成果を把握・評価するための方法の導入については検討を続けていただきたい。特に学習成果の把握・評価に関しては、学生が学位授与方針に示した能力を修得したかどうかを把握・評価するうえでも、他研究科の取り組みを参考にしながら早急に取り組んでいただきたい。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

・重点目標の「学生支援における学習支援」への変更は、学生の大半が学部卒業からかなりの期間をへているうえ、就労にともなう時間的な拘束が長い社会人学生を主体としているため、一般的な院生とは異なる支援策が必要なことを考慮して決定した。この決定に基づき、学習支援に関する院生のニーズ把握を行うための方法を決定、実施、ニーズ内容を整理したうえで、院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を検討していく。なお、外国人学生の受け入れについては、今年度1名が入学（応募は2名）になった。この学生が今後の外国人学生のモデルになるように努力したい。学習成果の把握・評価などに関しては、新たに教務委員を決め、この教員を中心に、検討作業を進めていくことを運営委員会として決定している。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

連帯社会インスティテュートへの2019年度評価結果への対応については、2019年度中期・年度目標における重点目標を「学生支援における学習支援」に変更したことについて、学生の大半が学部卒業からかなりの期間を経ていることや、就労に伴う時間的な拘束が長い社会人学生を主体としていることから、一般的な院生とは異なる支援策が必要であることが言及されている。この点は評価されるべきであろう。しかしながら、年度目標達成状況総括によれば、各目標について運営委員会で議論をしているにもかかわらず、目標の進捗状況を確認するための会議が行われていなかったため達成状況が不十分であったようである。今後は、進捗状況の確認や課題の抽出、解決に向けたプランの検討などを目的とする会議などの通じて、実施の方向性を示していただきたい。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2020年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。

S B

※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

・コースワークで教員から専門領域の学習が提供されたうえで、現場の実態の理解を促すために「連帯社会とサードセクター」を設けている。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

・特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・特になし	
②専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>・労働組合、協同組合、NPOの基本を学生全員が学び、それを踏まえて各プログラムにおいて労働組合、協同組合、NPOを理論的かつ多面的に学ぶことのできる科目を提供している。これに加えて、理論と同時に実践も学べるような講師陣によるプログラム横断的な科目「連帯社会とサードセクター」を提供してきた。2018年度から「サードセクター協働論」の授業を開講し、労働組合、協同組合、NPOの3者の協働について深く学ぶことになった。</p> <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・シラバス。</p>	
③大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。</p> <p>・連帯社会、サードセクターについての海外の研究者や実務家が来日した際には、連帯社会研究協力センターの協力を得て特別講演を依頼し、学生が受講できるようにしている。2019年度には、アメリカのNPOの弁護士（11月）とソーシャルワーカー（12月）を講師として招き、セミナーを実施した。また、「比較社会労働運動史」や「NPO論Ⅰ」、「NPO論Ⅱ」「NPOとソーシャルチェンジ」などにおいて、グローバルな視点からの授業が提供されている。</p> <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・シラバス</p>	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※履修指導の体制及び方法を記入</p> <p>・2016年度まで新入生のオリエンテーションの際に、履修モデルを口頭で各プログラムの専任教員が指導していた。2017年度にはカリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーを策定したため、2018年度からこれを活用して、学生の履修指導を行っている。</p> <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリー」</p>	
②研究科（専攻）等として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HPや要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。</p> <p>新入生のオリエンテーションの際に、「修士論文提出までのタイムスケジュール」「修士論文の提出、審査体制、審査基準」という2種類の資料を配布し、説明している。</p> <p>【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。</p> <p>・「修士論文提出までのタイムスケジュール」「修士論文の提出、審査体制、審査基準」</p>	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p> <p>・1年次におけるゼミ、2年次における論文指導で研究指導、学位論文指導を行っている。その上、1年次、2年次にそれぞれ「研究報告」を年2回（春と秋）開催し、修士論文につながる研究テーマの発表、論文執筆の進捗状況を発表させている。1年生、2年生ともに、また春秋ともに、いずれも3時間以上にわたる発表である。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。</p> <p>成績評価と単位認定については、3人の専任教員によるシラバスチェックをより厳密に行うことでその適切性を判定している。</p> <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。</p> <p>新生生のガイダンスの際に「修士論文の提出、審査体制、審査基準」を配布し、説明している。</p> <p>【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。</p> <p>・「修士論文の提出、審査体制、審査基準」</p>	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。</p> <p>・学生は10人程度と少人数で、審査は3人の専任教員が行うため、学位授与状況は容易に把握できる。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>・連帯社会を担っていくのにふさわしい人材として育つよう2年間教育、指導を行っている。</p> <p>・修士論文についても審査基準の一つとして「連帯社会にかかわる課題を適切に取り扱っていること」を掲げている。</p> <p>・各教員はこの基準を念頭に論文指導、論文審査を行っている。</p> <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。</p> <p>・連帯社会を担っていくのにふさわしい人材として育つように、基礎科目、必修科目、選択必修科目を配置している。各プログラムの基礎科目を全員に学ばせ、また実践家を中心とした多彩な講師陣によるオムニバス授業「連帯社会とサードセクター」を必修科目としている。各教員はこの教育方針に沿ってゼミ、論文指導を行っている。修士論文に関してもこの教育方針のもと1年次、2年次に2度にわたる研究報告を開催し3人の専任教員が共同で責任を持つ体制を整えている。</p> <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。</p> <p>・労働組合プログラム、協同組合プログラムの学生は、通常、推薦組織が所属組織になっているため、特段把握する必要はない。2019年度も同様であった。なお、NPOプログラムの学生は、推薦制度に基づく選抜ではないが、通常、社会人であるため、新たな就職先や進学先はない。2019年度も同様であった。</p> <p>・これらについては、運営委員会で情報として共有している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
※取り組みの概要を記入。 ・ 特にしていない	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 特になし	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。 ・ 特にしていない。	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 特になし	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。 ・ 基礎科目、必修科目、選択必修科目については、選択式と記述式の設定を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施している。各科目の調査結果を運営委員会で提示し、それを一つの資料として運営委員会および各教員が検証を行っている。	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 「2019年度授業改善のためのアンケート」	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。 ・ 基礎科目、必修科目、選択必修科目については、記述式と選択式の設定を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施している。各科目についての調査結果は、運営委員会に提示し、授業改善に向けての資料として有効活用している。また、運営委員会メンバー以外の教員（非常勤講師も含む）に対しては、全体の調査結果（選択式の設定）と担当科目の記述式の調査結果をフィードバックしている。	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 「2019年度授業改善のためのアンケート」	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・ 特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・ 特になし	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートでは、コースワークでの専門領域の教育が提供されたうえで、現場の実態と理解を促すため、「連帯社会とサードセクター」を設けており、海外の研究者や実務家が来日した際に、連帯社会研究協力センターの協力を得て特別講演を依頼することで、学生の受講が可能となる点は評価できる。とくに2019年度に、アメリカのNPOの弁護士（11月）やソーシャルワーカー（12月）を講師として招いてセミナーを実施した点や「比較社会労働運動史」や「NPO論Ⅰ」、「NPO論Ⅱ」「NPOとソーシャルチェンジ」などの授業でグローバルな視点から学ぶことができる点は高い評価ができる。

学生の履修指導や研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導も適切に行われていると判断できるが、学習成果の測定指標の導入については検討が望まれる。

2 教員・教員組織

【2020年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①研究科（専攻）等内の独自のFD活動は適切に行われていますか。

S A B

【FD活動を行なうための体制】※箇条書きで記入。

運営委員会で以下のような取り組みを行っている。

【2019年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

・基礎科目、必修科目、選択必修科目については、選択式と記述式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施し、科目ごとの調査結果を運営委員会に提示し、それを資料として授業改善のための議論を行っている。2019年度は、9月と2月に実施した。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

・特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・「2019年度授業改善のためのアンケート」

②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。

・労働組合、協同組合、NPOの3つのプログラムの専任教員は、それぞれの専門領域に応じて研究活動や社会貢献活動などを実施している。それぞれのプログラムの専任教員はひとりずつなので、活動の活性化や資質向上については、各教員の判断に任せている。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートにおけるFD活動は適切に行われている。連帯社会インスティテュート独自のアンケート調査を、2019年度は9月と2月に実施し、結果を運営委員会で検討している。アンケートは、担当教員が授業改善に利

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

用するとともに、大きな問題が指摘された場合は運営委員会が対応する問題発見ツールとしても活用されている。オンライン授業に対するアンケートも行われており、オンライン授業では、アンケートの有効な活用はさらに重要であろう。また、定期的に公開シンポジウムを開催することで、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化を行っている。2019年度には、連帯社会研究交流センターの協力を受け、7回の公開シンポジウムが実施されている。

III 2019年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】					
1	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて自己点検を行い、必要に応じて見直しを行う。 ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取し、正規の院生として入学する割合を高めるとともに、入学後にメリットがでるように検討する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人大学院という性格を踏まえ、修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討を行い、必要と判断されれば、導入する。 ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行う。 					
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて自己点検を行い、その結果をもちより、検討を行う。 ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について検討する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人大学院という性格を踏まえ、修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討するため、他研究科などの実態を把握する。 ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行う。 					
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて、教員による自己点検のフォーマットが作成されること。 ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について検討する会議を開催し、それらを決定されること。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討するため、他研究の実態などを把握し、メリット・デメリットが整理されること。 ・3プログラム制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検フォーマットが作成されること。 					
	年度末報告	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">教授会執行部による点検・評価</td> </tr> <tr> <td>自己評価</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td> <p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについての教員による自己点検のフォーマットは作成中。 </td> </tr> </table>	教授会執行部による点検・評価		自己評価	B	理由
教授会執行部による点検・評価							
自己評価	B						
理由	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについての教員による自己点検のフォーマットは作成中。 						

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について検討する会議は、未開催。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> ・修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討するため、他研究の実態などを把握し、メリット・デメリットの整理は、未実施。 ・3プログラム制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導についての自己点検フォーマットの作成は未実施。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○教務委員が中心になり、前期・後期に2回ずつ程度、会議を開催し、以下の点を実施する。 ①授業科目 <ul style="list-style-type: none"> ・教員による自己点検のフォーマットの作成の進捗状況を確認する。 ・科目等履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について検討する。 ②修士論文 <ul style="list-style-type: none"> ・リサーチペーパーの検討について他研究の実態などを把握し、検討案を作成する。 ・3種類の論文指導についての自己点検フォーマット作成手順を検討し、案を作成する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて検討していく。 ・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく必要があるかどうか、議論し、必要に応じた措置をとる。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検を行うとともに、他大学院や他法政大学の他研究科の方法なども調査し、必要な見直しを行う。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて検討する。 ・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく必要があるかどうか、議論する。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検を行う。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法については、学習効果を上げるためのFDなどを検討する会議が行われること。 ・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないが、把握、検討していく必要があるかどうか、議論する会議が行われること。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検する会議を開催すること。
	年度末報告	<p>教授会執行部による点検・評価</p> <p>自己評価 B</p> <p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法について、学習効果を上げるためのFDなどを検討する会議の開催は未実施。 ・非常勤の教員についての教育方法の把握、検討していく必要があるかどうか、議論する会議の開催は未実施。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検する会議の開催は未実施。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	改善策	<p>○教務委員が中心になり、前期・後期に2回ずつ程度、会議を開催し、以下の点を実施する。</p> <p>①授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD実施の必要性を検討する。 ・非常勤の教員についての教育方法の把握、検討していく必要を検討する。 <p>②修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検する必要性について検討する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準を検討し、この基準に基づき、到達度を図る可能性について調べ、必要な場合は、導入する。 ・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。 ・個々の教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、導入する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告について、出席と報告の確認だけではなく、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討し、必要な措置をとることにより、論文のレベルアップをはかる。 ・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入に務める。
	年度目標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準（以下、到達目標基準）に関する案を各教員が作成し、この基準案について、検討する。 ・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の基準案を作成、検討する。 ・専任教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握する方法を検討し、その方法に基づき、把握する。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討する。 ・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討する。
	達成指標	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任教員が担当している科目については到達目標基準に関する案を各教員が作成すること。作成された案は、専任教員全員で検討し、妥当とされる割合が80%以上になること。 ・オムニバス授業についても、同様の基準案が作成され、専任教員により妥当とみなされること。 ・専任教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合（院生の個人的な理由で履修できない場合を除く）を把握する方法を前期中に策定すること、その方法に基づき、後期授業から、単位取得の割合を把握すること。この割合が80%以上（受講生が5人未満の場合は66%以上、3人未満は対象外）になること。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などを判断する枠組みを検討する会議を、後期に開催すること。 ・論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討する会議を、後期に開催すること。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
年度末報告	理由	<p>○授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 専任教員が担当している科目の到達目標基準に関する案については、各教員が作成中で、専任教員全員で検討も一部実施済み。 オムニバス授業についての同様の基準案が作成は、未着手。 専任教員の担当科目、オムニバス授業ともに、履修した院生が単位を取得した割合（院生の個人的な理由で履修できない場合を除く）を把握する方法を前期中に策定することは、未実施。その方法に基づき、後期授業から、単位取得の割合を把握すること。この割合が80%以上（受講生が5人未満の場合は66%以上、3人未満は対象外）になることも未実施。 <p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などを判断する枠組みを検討する会議は、未開催。 論文について、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討する会議は、未開催。 	
	改善策	<p>○教務委員が中心になり、前期・後期に2回ずつ程度、会議を開催し、以下の点を実施する。</p> <p>①授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> オムニバス授業の到達目標基準の必要性について検討後、必要と判断された場合、案を検討する。 成績評価後の会議に、専任教員の担当科目については専任教員、オムニバス授業については教務委員が、履修した院生が単位を取得した割合について確認、会議に報告する。 <p>②修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などを判断する枠組みの必要性について検討後、必要と判断された場合、案を検討する。。 論文について、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の必要性について検討後、必要と判断された場合、案を検討する。 	
No	評価基準	学生の受け入れ	
4	中期目標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> 推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握し、改善を図る。 一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、検討し、予算措置を含め、必要な手段を実施する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準などについて検討し、改善策を探る。 留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討し、可能な措置を導入する。 社会人大学院では、OB/OGの推薦が学生募集に大きな影響を与える。このため、OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を検討、可能な措置を導入する。 	
	年度目標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> 推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握する方法を開発する。 一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、予算措置を含め、必要な手段を検討する。 <p>○その他</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準などについて検討する。 ・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検する。 ・OB/OG と在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を検討する。
	達成指標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握するための方法を決定すること。 ・一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを最低2回実施すること。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、予算措置を含め、必要な手段を検討し、実施案をまとめること。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準案を作成すること。 ・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討するための会議を開催すること。 ・OB/OG と在校生、潜在的受験生のつながりを作る必要性について検討し、結論をえること。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
		自己評価 B
		理由
		<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握するための方法は、検討中。 ・一般入試についてのインスティテュート独自の説明会の実施や、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、予算措置を含め、必要な手段を検討は、未着手。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者の質的水準の確保に向けた、選抜における口頭試問の評価基準案は、未着手。 ・留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討するための会議は未開催。 ・OB/OG と在校生、潜在的受験生のつながりを作る必要性について検討は、未着手。
		改善策
		<p>○教務委員が中心になり、前期・後期に2回ずつ程度、会議を開催し、以下の点を実施する。</p> <p>①入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握する必要性について検討する。 ・一般入試について独自の説明会や、ウェブサイトの充実や広報マテリアルの作成と配布について、予算措置を含めた手段を検討する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者の質的水準の確保に向けた、選抜における口頭試問の評価基準案作成必要性について検討する。 ・留学生の受け入れ拡大に向けた対策の必要性について検討する。 ・OB/OG と在校生、潜在的受験生のつながりを作る必要性について検討する。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	<p>○非常勤の教員の考えのインプット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任教員が3名と少ないため、授業において、非常勤の教員への依存度は小さくない。非常勤の教員は、インスティテュートの院生の養成目的を達成するために重要な位置を占めているという認識に立ち、非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討し、必要な措置を導入する。
	年度目標	<p>○非常勤の教員の考えのインプット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤の教員の考えをインプットする前提として、カリキュラムにおける担当科目の位置づけや評価などに関する、非常勤の教員の考えの把握に努める。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	達成指標	○非常勤の教員の考えのインプット ・カリキュラムにおける担当科目の位置づけや評価などに関する、非常勤の教員の考えの把握するための手法を検討、決定すること。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
		自己評価 A
		理由 ○非常勤の教員の考えのインプット ・カリキュラムにおける担当科目の位置づけや評価などに関する、非常勤の教員の考えの把握するための手法は、検討中。
	改善策	－
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	○授業・論文指導 ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムの改善策を検討し、必要な措置を導入する。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性を検討し、必要と判断された場合、その方法について検討、実施する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行い、ニーズが高いものについて、導入の可能性を検討し、可能な場合は、導入する。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握などのため、院生会の設立を学生とともに検討し、必要かつ可能であれば、設立する。また、院生会をはじめとした学生とともに、学生支援などに関する話し合いの場の設定を検討、必要な場合、設ける。
	年度目標	○授業・論文指導 ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムを、各教員がどのように行っているか、把握するための方法を議論、決定する。論文指導に関しては、院生にニーズ把握を行う以前の作業として、複数の教員による指導を行うことのメリットとデメリットなどを検討し、整理する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行うための方法を決定、実施、ニーズ内容を整理すること。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を検討する。
	達成指標	○授業・論文指導 ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムを、各教員がどのように行っているか、会議を開催し、現状を把握すること。論文指導に関しては、複数の教員による指導のニーズ把握に先立ち、複数の教員による指導を行うことのメリットとデメリットなどを検討し、整理、ニーズ把握を行うかどうか、結論をえること。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行う必要性や方法を検討し、結論をえること。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を検討、具体的な方法を決定すること。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
自己評価		A
	理由	○授業・論文指導 ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムを、各教員がどのように行っているかについては、把握がなされている。論文指導に関しては、最終草稿が12月初旬までに提出された場合は、指導教員以外の教員からのコメントを求める仕組みが導入されたが、院生のニーズ把握には至っていない。 ○その他

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

			<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行う必要性や方法は検討中。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法は検討中。
		改善策	—
No	評価基準	社会連携・社会貢献	
7	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ○連帯社会の構築を担う実務家を育成することを通じて、社会に貢献し、社会と連携するという本インスティテュートの設立目的を持続的に果たす。 ○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信することによって社会に貢献し、社会と連携することを目指す。 	
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ○連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、入学者の卒業割合を高く維持する。 ○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信する方法について検討する。 	
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、入学者の卒業割合を80%以上に維持すること。 ○専任教員は、著書・論文・学会発表・講演などの形で複数回、研究成果を外部に発信すること。この研究成果の発信方法について検討し、具体的な方策が決定されること。 	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		<ul style="list-style-type: none"> ○入学者の卒業割合は、80%以上に維持されている。 ○専任教員の研究成果の外部に発信は、各自複数回実施している。研究成果の発信方法について検討したが、具体的な方策の決定に至っていない。 	
改善策	—		
<p>【重点目標】</p> <p>学生支援における「学習支援」を最も重視する。学部卒業からかなり期間をへているうえ、就労にともなう時間的な拘束が長い社会人学生を主体としているため、従来の院生とは異なる支援策が必要と推察される。このため、学習支援に関する院生のニーズ把握を行うための方法を決定、実施、ニーズ内容を整理したうえで、院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を検討していく。</p>			
<p>【年度目標達成状況総括】</p> <p>今年度の目標達成状況を総括すると、不十分な点が少なくなかった。その大きな理由は、運営委員会で議論をしてきたものの、目標の進捗状況を確認するための会議を行ってこなかったことにある。この点を踏まえ、来年度は、進捗状況の確認や課題の抽出、解決に向けたプランの検討などを実施していきたい。</p>			

【2019年度目標の達成状況に関する大学評価】

<p>連帯社会インスティテュートの2019年度目標の達成状況に関しては、重点目標に挙げられた学生支援における「学習支援」を含めて、不十分な点が少なくなかった。自己評価でBとなっている評価基準については「未着手」「未開催」の指標がほとんどで、Aの評価基準についても検討中の事項が多く、目標を達成した指標はほとんどない状況である。その大きな理由は、「年度目標達成状況総括」によれば、「運営委員会で議論をしてきたものの、目標の進捗状況を確認するための会議を行ってこなかったことにある」とのことである。この点を踏まえ、2020年度は、設定した年度目標については、進捗状況の確認や課題の抽出、解決に向けたプランの検討などを実施していただくことを期待したい。</p>

IV 2020年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業科目 ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて自己点検を行い、必要に応じて見直しを行う。

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取し、正規の院生として入学する割合を高めるとともに、入学後にメリットがでるように検討する。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> ・社会人大学院という性格を踏まえ、修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討を行い、必要と判断されれば、導入する。 ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）制に基づく各プログラム担当教員とプログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行う。
	年度目標	○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名（以下、プログラム担当教員）は、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて自己点検を行い、その結果をもちより、授業改善に向けた検討を行う。 ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について、教務委員を中心に、検討する。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> ・社会人大学院という性格を踏まえ、教務委員を中心に、修士論文に加え、リサーチペーパーを認めるかどうか検討するため、他研究科などの実態を把握する。 ・プログラム担当教員は、プログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検を行い、見直しを行う。
	達成指標	○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム制に基づく、基礎科目、専門科目、選択必修科目の区分を含む、カリキュラム体系、各科目の配置、シラバスの記載項目などについて、各プログラム担当教員による自己点検のフォーマットが作成されること。 ・科目等履修生に関して、履修生から意見や希望を聴取する時期や方法について検討する会議を開催し、それらが決定されること。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> ・修士論文に加えて、リサーチペーパーを認めるかどうか、検討するため、他研究の実態などを把握し、メリット・デメリットが整理されること。 ・3プログラム制に基づく各プログラム担当教員は、プログラム構成院生によるゼミ（特論演習Ⅰ、Ⅱ、および論文指導Ⅰ、Ⅱ）、研究報告（M1、M2とも年2回）と個別指導の3種類の論文指導について、自己点検フォーマットを作成すること。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて検討していく。 ・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく必要があるかどうか、議論し、必要に応じた措置をとる。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、自己点検を行うとともに、他大学院や他法政大学の他研究科の方法なども調査し、必要な見直しを行う。
	年度目標	○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法については学習効果を上げるためのFDなどの取り組みについて教務委員を中心に検討する。 ・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないので、把握、検討していく必要があるかどうか、教務委員を中心に議論する。 ○修士論文

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、教務委員を中心に検討を行う。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法については、学習効果を上げるためのFD実施に関する会議が行われること。 ・非常勤の教員については、教育方法について把握できていないが、把握、検討していく必要があるかどうか、議論する会議が行われること。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告（M1、M2とも年2回）の実施回数や方法、論文研究指導の実施方法、論文の審査体制と評価方法などについて、会議を開催し、変更の必要性について検討すること。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> ・個々の教員が担当している科目については、シラバスの「到達目標」を把握する基準を検討し、この基準に基づき、到達度を図る可能性について調べ、必要な場合は、導入する。 ・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、同様の措置を検討するとともに、シラバスの「成績評価の方法と基準」について、見直しを行い、必要な場合は修正を行う。 ・個々の教員の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握し、割合を高める措置を検討、導入する。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告について、出席と報告の確認だけでなく、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて判断する枠組みを検討し、必要な措置をとることにより、論文のレベルアップをはかる。 ・論文については、提出時の評価だけでなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討し、導入に務める。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名は、各担当科目について、シラバスの「到達目標」を把握する基準（以下、到達目標基準）に関する案を作成し、この基準案について、検討する。 ・オムニバスの授業（連帯社会とサードセクター）についても、教務委員が同様の基準案を作成、検討する。 ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名は、各担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合を把握する方法を検討し、その方法に基づき、把握する。 ○修士論文 <ul style="list-style-type: none"> ・研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などについて、教務委員が中心になり、判断する枠組みを検討する。 ・論文については、提出時の評価だけでなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を、教務委員が中心になり、検討する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業科目 <ul style="list-style-type: none"> ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名が担当している科目については到達目標基準に関する案を各教員が作成すること。作成された案は、3教員全員で検討し、妥当とされる割合が80%以上になること。 ・オムニバス授業についても、同様の基準案が作成され、3教員により妥当とみなされること。 ・3プログラム（NPO、労働組合、協同組合）の担当教員3名の担当科目、オムニバス授業とともに、履修した院生が単位を取得した割合（院生の個人的な理由で履修できない場合を除く）を把握する方法を策定すること。その方法に基づき、学期末に単位取得の割合を把握すること。この割合が80%以上（受講生が5人未満の場合は66%以上、3人未満は対象外）になること。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		<p>○修士論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究報告について、報告内容のレベル基準や指標、その後に改善がなされた程度などを判断する枠組みを検討する会議を、年度内に開催すること。 ・ 論文については、提出時の評価だけではなく、2年間の進歩についても判断するプロセス評価の手法を検討する会議を、年度内に開催すること。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握し、改善を図る。 ・ 一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、検討し、予算措置を含め、必要な手段を実施する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準などについて検討し、改善策を探る。 ・ 留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討し、可能な措置を導入する。 ・ 社会人大学院では、OB/OGの推薦が学生募集に大きな影響を与える。このため、OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を検討、可能な措置を導入する。
	年度目標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握する方法を教務委員を中心に開発する。 ・ 一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを実施する。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、予算措置を含め、教務委員を中心に必要な手段を検討する。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準などについて教務委員を中心に検討する。 ・ 留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討する。 ・ OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作るためのホームカミングデーなどの手段を教務委員を中心に検討する。
	達成指標	<p>○入試広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 推薦入試については、院生を推薦した団体の修了後の満足度を把握するための方法を決定すること。 ・ 一般入試については、全学の説明会に加えて、インスティテュート独自の説明会などを最低2回実施すること。また、ウェブサイトの充実や広報マテリアル（パンフなど）の作成と配布について、予算措置を含め、必要な手段を検討し、実施案をまとめること。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学者の質的水準の確保に向け、選抜における口頭試問の評価基準案を作成すること。 ・ 留学生の受け入れ拡大に向けた対策を検討するための会議を開催すること。 ・ OB/OGと在校生、潜在的受験生のつながりを作る必要性について検討し、結論をえること。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	<p>○非常勤の教員の考えのインプット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が3名と少ないため、授業において、非常勤の教員への依存度は小さくない。非常勤の教員は、インスティテュートの院生の養成目的を達成するために重要な位置を占めているという認識に立ち、非常勤の教員の考えをインプットする仕組み（意見交換会など）を検討し、必要な措置を導入する。
	年度目標	○非常勤の教員の考えのインプット

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤の教員の考えをインプットする前提として、カリキュラムにおける担当科目の位置づけや評価などに関する、非常勤の教員の考えの把握に、プログラム担当教員が分担して行う。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○非常勤の教員の考えのインプット ・カリキュラムにおける担当科目の位置づけや評価などに関する、非常勤の教員の考えの把握するための手法を検討、決定すること。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業・論文指導 ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムの改善策を検討し、必要な措置を導入する。論文指導に関しては、主指導ひとりの体制だが、複数の教員による指導の可能性を検討し、必要と判断された場合、その方法について検討、実施する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行い、ニーズが高いものについて、導入の可能性を検討し、可能な場合は、導入する。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握などのため、院生会の設立を学生とともに検討し、必要かつ可能であれば、設立する。また、院生会をはじめとした学生とともに、学生支援などに関する話し合いの場の設定を検討、必要な場合、設ける。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業・論文指導 ・授業については、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムを、各教員がどのように行っているか、把握するための方法を、教務委員が中心になって議論、決定する。 ・論文指導に関しては、院生にニーズ把握を行う以前の作業として、複数の教員による指導を行うことのメリットとデメリットなどを、教務委員が中心になって検討し、整理する。 ○その他 ・学習支援に関連して、院生のニーズ把握を行うための方法を決定、実施、ニーズ内容を整理すること。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を、教務委員が中心になって検討する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○授業・論文指導 ・授業について、各教員は、オフィスアワーの周知と活用促進策をはじめとした授業支援システムを、各教員がどのように行っているか、会議を開催し、現状を把握すること。論文指導に関しては、複数の教員による指導のニーズ把握に先立ち、複数の教員による指導を行うことのメリットとデメリットなどを、教務委員を中心に検討し、整理、ニーズ把握を行うかどうか、結論をえること。 ○その他 ・学習支援に関連して、教務委員を中心に院生のニーズ把握を行う必要性や方法を検討し、結論をえること。 ・院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を教務委員を中心に検討、具体的な方法を決定すること。
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ○連帯社会の構築を担う実務家を育成することを通じて、社会に貢献し、社会と連携するという本インスティテュートの設立目的を持続的に果たす。 ○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信することによって社会に貢献し、社会と連携することを目指す。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ○連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、各教員は、入学者の卒業割合を高く維持するよう努める。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	○専任教員が連帯社会を構成する労働組合、協同組合、NPOの研究を進め、研究成果を積極的に外部に発信する方法について検討する。
達成指標	○連帯社会の構築を担う実務家を育成するという設立目的を持続的に果たすため、入学者の卒業割合を80%以上に維持すること。 ○専任教員は、著書・論文・学会発表・講演などの形で複数回、研究成果を外部に発信すること。この研究成果の発信方法について検討し、具体的な方策が決定されること。
<p>【重点目標】 学生支援における「学習支援」方法の改善</p> <p>【目標を達成するための施策等】 学部卒業からかなり期間をへているうえ、就労にともなう時間的な拘束が長い社会人学生を主体としているため、従来の院生とは異なる支援策が必要と推察される。このため、学習支援に関する院生のニーズ把握を行うための方法を決定、実施、ニーズ内容を整理したうえで、院生間のコミュニケーションや連携の促進や共通のニーズの把握を行うための方法を検討していく。</p>	

【2020年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

2020年度中期・年度目標の設定は、2019年度の目標のほとんどが未達成であったこともあり、ほぼ同じ年度目標を掲げる評価基準が多いものの、その内容は概ね適切であると考えられる。2019年度も「非常勤の教員の考えのインプット」が設定されているので、さらなる検討が期待される。「学習成果の測定」に関する目標も継続して設定されている。着実に検討を進めるとともに、学位授与方針に示した能力を修得したかどうかという観点からの「学習成果の測定」についても取り組みをお願いしたい。重点目標である「学生支援における学習支援」に関しては、社会人学生支援の目標達成が望まれる。

【大学評価総評】

連帯社会インスティテュートの教育内容について、コースワークとリサーチワークが適切に設定されている。「連帯社会とサードセクター」「サードセクター協働論」が特色ある科目として評価される。教育方法では、カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーに基づいて学生の履修指導が適切に行われている。研究指導計画に基づいた学生の研究報告（1年次に2回、2年次に2回）と、それに対する指導は高く評価できる。成績評価と単位認定も適切に行われている。連帯社会インスティテュート独自のアンケート調査を実施し、FD活動は適切に行われている。2020年度中期・年度目標について、社会人学生の支援に関して前年度と同様に目標達成を期待したい。

外国人学生の受け入れ、兼任講師からのフィードバックの活用、学習成果の測定指標の導入、学習成果を把握・評価するための方法の導入については検討を続けていただきたい。特に学習成果の把握・評価に関して、学生が学位授与方針に示した能力を修得したかどうかを把握・評価するうえでも他研究科の取り組みを参考にしながら早急に取り組んでほしい。

2020年度目標については、進捗状況の確認や課題の抽出、解決に向けたプランを作成のうえ、目標達成のための施策を検討・実施していただきたい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

総合理工学インスティテュート (IIST)

I 2019年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2019年度大学評価結果総評】 (参考)

総合理工学インスティテュートは大学院教育のグローバル化推進を目的として、(1) さくらサイエンスプランへの応募、(2) IIST コロキウムの開催、(3) 現地訪問を通じた広報活動を継続的に行うことで学生数を確実に増加しており、また2019年度入試で20名の応募があり定員充足が予想されることから、グローバル化推進の取り組みは適切に実施されていると評価できる。教員・教員組織に関しても適切であり、IIST コロキウムなどを通じた研究成果の発信も行われている。

一方、学生による授業改善アンケートは未だに実施されておらず、学生の意見を反映する仕組みを早急に確立する必要がある。また、定員充足を継続的に維持するためには、外部資金獲得による奨学金制度の充実や学生に人気のある研究分野を修士学生受入対象に追加するなど新たな取り組みが期待される。英語で学位取得ができる理系研究科は国内の私大には未だ少なく、本学大学院教育のグローバル化を推進する上で重要な役割を担っていると考えられる。奨学金や修士学生の受け入れ研究分野の拡張なども視野に入れ、安定的に定員を充足するための継続的な取り組みが望まれる。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

年度末、IIST 在学生を対象に授業・生活アンケートを実施した。IIST が提供する研究環境と指導、授業、生活サポートに関する満足のレベルをフリーフォーマットで回答を求める内容で、40名中27名(67.5%)から回答があった。これらのアンケート結果を運営委員会で共有し、教育・研究環境の改善にむけたPDCAサイクルを仕組みとして確立してゆくこととする。奨学金制度の充実については強く望むところではあるが理事会事項でもあり、IISTとしては大学院研究科長会議で議論されている博士課程無償化の進捗に注目したい。科目の充実についてはご指摘のように安定的な定員確保にむけた重要課題であるとともにIISTとしては学びのニーズにこたえるカリキュラム再編として重要視している。年度目標で述べたようにフィールド新設に関連させ、充実させる計画である。現在本年度9月入学生受け入れの入試期間中であるが昨年に引き続き定員確保の見通しである。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

総合理工学インスティテュート(以降、IIST)における大学院教育のグローバル化推進および教員・教員組織は適切であり、研究成果の発信も滞りなく行われているが、学生の意見を反映する仕組みを早急に確立する必要があること、また、定員充足を維持するためには、外部資金獲得による奨学金制度の充実や学生に人気のある研究分野を修士学生受入対象に追加するなど新たな取り組みが期待されている。この2019年度の評価結果に対し、IISTでは、在学生を対象に授業・生活アンケートを年度末に実施し、その結果を運営委員会で共有し、教育・研究環境の改善にむけたPDCAサイクルを仕組みとして確立したことは高く評価できる。また、科目の充実については学びのニーズにこたえるカリキュラム再編し、フィールド新設に関連させて科目を充実させる計画であることも評価に値する。

II 自己点検・評価

1 教育課程・教育内容

【2020年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

① 修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。

S A B

※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

② 博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S A B
※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S A B
※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。	
【修士】	
【博士】	
インテリジェントロボティクスフィールド・データサイエンスフィールドの新設に向けた検討を始めている。前者については準備委員会を発足させ検討を進めている。	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S A B
※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。	
【修士】	
【修士・博士共通】	
IIST コロキウムを3回実施・企画した	
■2019年10月2日上海復旦大学のYibo Fan教授を招待し次世代高精細ギガピクセルビデオカメラのシステム設計からハードウェア設計に至る最新の研究動向を紹介頂いた。	
■2019年11月26日台湾国立中央大学のTimothy K. Shih 特別荣誉教授、Wen-June Wang 教授を招待しそれぞれ視覚障害者のための支援デバイス開発、深層学習を用いた精密動作分析とHCI(ヒューマン・コンピュータインタラクション)への応用に関する先進的な研究成果のご講演を頂いた。	
いずれの講演についても、多くの教員、大学院生の参加があり熱心な討論が行われた。	
■コロナウィルスの影響を受け先送りになっている IIST 学生の修士論文中間発表会をオンライン会議システムで実施する計画を企画、実施の予定である。君館的な制約を超えて海外からの参加も可能とするものであり、今後の IIST グローバル化のありかたをさぐる重要な意義をもつと思われる。	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・実施コロキウムプログラム(根拠資料1)	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S A B
※履修指導の体制および方法を記入。	
【修士】	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【博士】	
情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<p>②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。</p>	<p>はい いいえ</p>
<p>※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HP や要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。</p>	
<p>【修士】 ガイダンス時、学位取得までのロードマップを含む研究指導スケジュールを英語で伝えている。</p>	
<p>【博士】 ガイダンス時、学位取得までのロードマップを含む研究指導スケジュールを英語で伝えている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。 ・IIST2019 ガイダンスレジュメ(根拠資料2)</p>	
<p>③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。</p>	<p>はい いいえ</p>
<p>※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p>	
<p>【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
<p>【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<p>1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
<p>①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。</p>	<p>S A B</p>
<p>※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。</p>	
<p>【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
<p>【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<p>②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。</p>	<p>はい いいえ</p>
<p>※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。</p>	
<p>【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
<p>【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
<p>【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。</p>	
<p>③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。</p>	<p>はい いいえ</p>
<p>※簡条書きで記入※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。</p>	
<p>情報科学研究科・理工学研究科の記述参照</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	
<p>④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。</p>	<p>S A B</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

※取り組み概要を記入。	
【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S A B
※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。	
【修士】 ・情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【博士】 ・情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	はい いいえ
※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。 修了生が少ないこともあり就職・進学状況はおおむね把握している。本年度 IIST 在学生を対象に授業・生活アンケートを実施したが、今後はキャリアパスの希望も含めた調査を実施したい。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S A B
※取り組みの概要を記入。 【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照 【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照 【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S A B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。 【修士】 【修士・博士】 IIST 在学生の発表論文リストを作成、累積で 101 件のジャーナル 論文、学会発表を確認した。 【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし 【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・ IIST 在学生発表論文リスト(根拠資料 3)	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S A B
※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。	
【修士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【博士】 情報科学研究科・理工学研究科の記述参照	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S A B
※取り組みの概要を記入。	
IIST 在学生を対象に授業・生活アンケートを実施した。IIST が提供する研究環境と指導、授業、生活サポートに関する満足のレベルをフリーフォーマットで回答を求める内容で、40名中27名(67.5%)から回答があった。	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。	
特になし	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。	
・ IIST 在学生アンケート結果 (根拠資料 4)	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・本年度在学生の研究論文公表調査を実施し回答のあった16名について101件の論文発表が確認され、研究力レベルの高さが実証された。応募学生に対して指導教授との事前マッチング、研究計画、学業成績などの事前スクリーニングを実施している成果であると思われる。昨年度より定員充足を果たし、本年度も定員確保の見通しがたっていることから教育研究の質・量ともに適正なレベルに達していると評価される。	1.4②

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・終了後のキャリア支援が十分とは言えない。本年度実施した在学生を対象に授業・生活アンケートの内容を充実させ、出口サポートを強化したい。	1.3⑥

【この基準の大学評価】

<p>専門分野の高度化に対応した教育内容提供のため、インテリジェントロボティクスフィールド新設検討委員会をIIST 運営委員会内に設置し、フィールドを構成する科目群の整備に向けた検討をスタートさせたことを評価する。また、留学生の学びのニーズが高い「機械学習」「ニューラルネットの理論と応用」「無線センサーネットワーク入門」「デジタルシステム設計」「先進経営科学特論」を新設したことを評価する。学習成果を把握・評価するために、IIST 在学生の発表論文リストを作成し101件のジャーナル論文、学会発表を確認したことは、応募学生に対して指導教授との事前マッチング、研究計画、学業成績などの事前スクリーニングを実施している成果であり、高く評価できる。グローバル化推進のための取り組みとして、IIST コロキウムを3回実施・企画したことは評価に値する。学位取得までのロードマップを含む研究指導スケジュールを英文資料化しガイダンス時に説明していることを評価する。アンケートの組織的利用に関しては、IIST 在学生を対象にIIST が提供する研究環境と指導、授業、生活サポートに関する満足のレベルをフリーフォーマットで回答を求める授業・生活アンケートを実施したことを評価する。</p>
--

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

昨年度、定員充足を達成し、本年度も定員確保の見通しがあり、教育研究の質・量とも適正なレベルに達していることを高く評価する。

2 教員・教員組織

【2020年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①研究科（専攻）独自のFD活動は適切に行われていますか。	S A B
------------------------------	-------

【FD活動を行なうための体制】※箇条書きで記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照

【2019年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S A B
---	-------

※取り組みの概要を記入。

情報科学研究科・理工学研究科の記述参照

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

情報科学研究科国際化専念教員を1名採用し、英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やした。本年度採用教員は情報科学研究科ダブルディグリープログラムと兼務であるが、現行のIIST専任教員と合わせて2名の教員が英語学位プログラム対応に特化した専任教員となり、英語講義担当者増員は評価に値する。一般教員で留学生が受講希望したときに英語に切り替えて講義を担当できる教員を増やすことで、教育の内容を充実させるとともに教員の負荷分散を図るといった取り組みは評価できる。

III 2019年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	既存の6つの横断的学びのフィールド（Global Information Systems, Ubiquitous Network and Communication Systems, Global Business Analysis and Planning, Media and Information Processing, Advanced Bioscience and Chemical Engineering, Advanced Bioscience and Chemical Engineering）を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	年度目標	従来のフィールドを見直すとともに、留学生からの学びの需要が高いロボット工学、データサイエンス分野のフィールドの新設を検討する。	
	達成指標	既存フィールド、新規フィールドの応募者数	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	4月にインテリジェントロボティクスフィールド新設検討委員会をIIST運営委員会内に設置し、専攻横断的なフィールド設置に向けて検討を進めている。委員会は電気電子専攻2名、応用情報工学専攻2名、システム理工学専攻(創生科学系)より1名の委員により構成される。フィールドを構成する科目群の整備に向けた検討をスタートさせた。データサイエンス分野については進捗がなく、来年度ロボティクスフィールド新設と合わせて成案の策定を目指したい。
		改善策	ロボティクスフィールドについてはフィールドを担当する教員組織、横断的指導内容について、検討が進んでいる。データサイエンス分野についても同様な横断的組織化に関する検討を行い、来年度、予定されている、IISTに認められた増コマを有効に活用した抜本的なカリキュラム改定と歩調を合わせて2フィールドの新設を目指す。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	—
改善のための提言	—		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	IISTに認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。	
	年度目標	留学生の学びのニーズに応じた科目の整備	
	達成指標	英語対応科目数	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	留学生の学びのニーズが高い「機械学習」「ニューラルネットの理論と応用」「無線センサーネットワーク入門」「デジタルシステム設計」「先進経営科学特論」を新設した。上記科目は英語科目の改廃によるものであり英語科目増はない。
		改善策	これまでの英語学位プログラム運営の実績を踏まえ来年度は留学生の学びのニーズに即した英語設置科目の見直しを行う。現在開設されている日本語科目についても担当教員と主催専攻の理解を得て英語の切り替えられる科目を増加させたい。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		—	
改善のための提言	—		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
3	中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。	
	年度目標	IIST学生の発表論文リストを作成する。IIST学生の研究成果を発表する機会(IISTコロキウム)を企画する。修士、博士論文の公聴会を開催する。	
	達成指標	刊行・発表論文数	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	IIST在学学生(修士22名、博士14名)の発表論文リストを作成し101件のジャーナル論文、学会発表を確認、大きな学習成果を挙げていることを確認した。(別添資料参照) また、3名の博士課程学生(情報科学1名、理工学2名)が本年度博士号を取得したことも特筆すべき学習成果といえる。
改善策	学内向けの研究成果発表の機会(IISTコロキウム)については修士2年生の論文中間報告会を兼ねて来年度4月に実施の予定である。		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		質保証委員会による点検・評価	
		所見	－
		改善のための提言	－
No	評価基準	学生の受け入れ	
4	中期目標	研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。	
	年度目標	受け入れガイドラインを設定し、優秀な学生を選択的に受け入れる。	
	達成指標	入学後の研究成果	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	IIST 応募留学生においては博士課程進学希望者が多いがコースワークを重視した欧米大学と異なり、入学時すでに研究能力を有することを一定レベルで担保するガイドラインを策定した。修士課程に於いても同様のガイドラインを策定した。
		改善策	策定したガイドラインに従って学生を受け入れ、妥当性について評価し必要であれば改善する PDCA サイクルを確立したい。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		－	
	改善のための提言	－	
No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。	
	年度目標	情報科学研究科国際化専念教員の採用	
	達成指標	英語講義担当者数の割合	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	国際化専念教員を1名採用した。本年度採用教員は情報科学研究科ダブルディグリープログラムと兼務であるが、現行の IIST 専任教員と合わせて2名の教員が英語学位プログラム対応に特化した専任教員となる。
		改善策	一般教員で留学生が受講希望したときに英語に切り替えて講義を担当できる教員を増やし、教育の内容を充実させるとともに教員の負荷分散を図る。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		－	
	改善のための提言	－	
No	評価基準	学生支援	
6	中期目標	学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる。	
	年度目標	留学生を受けられる奨学金の調査及びリストを作成する。キャリア支援についてはキャリアセンターと協働で英語学位プログラム修了者のキャリアパスの可能性を調査する。	
	達成指標	進学・就職率	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	留学生を受けられる奨学金については英文資料を作成し、入学時ガイダンスで配布している。キャリア支援についてはキャリアセンターと英語のみで採用される企業の調査をスタートさせたが、調査段階であり留学生支援には至っていない。
		改善策	今後修了生の増加に伴い、キャリア支援の必要性が高まる。学生からのキャリアニーズをふまえたキャリアパス支援の体制を整えたい
		質保証委員会による点検・評価	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	所見	－	
	改善のための提言	－	
No	評価基準	社会貢献・社会連携	
7	中期目標	研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。	
	年度目標	教育内容を充実させ、優れた研究成果を挙げるよう指導する。	
	達成指標	刊行・発表論文数、グローバル企業就職率	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	教育課程・学習効果の項で述べたように、在學生は多くの優れた英語学術論文を発表している。このことは IIST の教育の質が高くグローバルな社会貢献を果たしていると評価される。
		改善策	課程修了後の追跡調査を実施し、修了生の社会貢献度を評価する。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		－	
改善のための提言		－	

【重点目標】

2016年に発足し、昨年度修士課程修了生を出したことに鑑み教育課程の見直し、特にこれまでの実績、留學生の学びのニーズに鑑み横断的なフィールドの見直しの検討を重点目標としたい。新たなフィールドの設置については教員有志による新設フィールド設置検討準備委員会を設けて検討を進める。また、運営委員会において IIST 創設当時認められたコマの有効活用も合わせて検討する。

【年度目標達成状況総括】

2016年度発足以来、アジア・東欧地区等への現地広報・ABE イニシャティブプログラム受け入れ、さくらサイエンスプランによる大学生招聘などを通じて国際的認知度を高め、本年度定員充足を果たした。受け入れ時に応募者全員に対して個別に学識確認、指導教員の事前マッチングをメール、ビデオ事前面接等を通じて行い、質の高い学生を確保している。そのことは本年度実施した発表論文調査で在學生が累積 101 件のジャーナル・国際会議論文を発表していること、本年度 3 名の博士課程修了生を輩出したことなどから明らかである。また、この実績は本教育課程が高い学習成果を挙げていることを示している。今後、本年度検討を開始した、ニーズの高いフィールドの創設、英語設置科目の改定に取り組み教育内容を充実させてゆきたい。また、在學生の修了後のキャリアパスサポートを充実させることも課題として残った。

【2019 年度目標の達成状況に関する大学評価】

IIST では、教育課程・教育内容の「既存の学びフィールドを見直し、需要の高いフィールドの新設を検討する」という目標設定に対し、インテリジェントロボティクスフィールド新設検討委員会を I I S T 運営委員会内に設置し、フィールドの整備をスタートさせたことは評価できる。一方で、データサイエンス分野については進捗がないため、今後の進展を期待したい。

教育方法に関しては、「英語科目を充実させる」「ニーズに応じた科目の整備」という中期・年度目標に対し、「機械学習」「ニューラルネットの理論と応用」「無線センサーネットワーク入門」「デジタルシステム設計」「先進経営科学特論」を新設したことを評価する。学習成果に関しては、「発表論文リストを作成する」という年度目標設定に対し、実際に発表論文リストを整理作成し 101 件のジャーナル論文、学会発表を確認したこと、3 名の博士課程学生が博士号を取得したことは評価に値する。

學生の受け入れに関して「研究能力の高い學生を受け入れ、恒常的に定員を確保する」という目標に対し、留學生の入学時研究能力のガイドラインを策定するとともに、修士課程も同様のガイドラインを策定したことを評価する。教員・教員組織の「英語講義・研究指導を担う教員増」という目標に対し、国際化専念教員を 1 名採用したことを評価する。學生支援の「学内外の奨学金、経済支援、キャリア支援の充実」という目標に対し、奨学金に関する英文資料を作成し、入学時ガイダンスで配布していることを評価する。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

IV 2020 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	既存の6つの横断的学びのフィールド (Global Information Systems, Ubiquitous Network and Communication Systems, Global Business Analysis and Planning, Media and Information Processing, Advanced Bioscience and Chemical Engineering, Advanced Bioscience and Chemical Engineering) を見直し、留学生から学びの需要の高い内容を反映させたフィールドを明示的に設けるなど、再編を行う。
	年度目標	留学生の学びのニーズに対応すべく懸案の2フィールドすなわち、インテリジェントロボティクスフィールドおよびデータサイエンスフィールド (いずれも仮称) の新設を目指す。両フィールドを研究科横断的とし、特色ある総合的な学びの環境を提供する。
	達成指標	インテリジェントロボティクスフィールドおよびデータサイエンスフィールド (仮称) の新設
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語科目を充実させる。
	年度目標	IIST 科目の統廃合、新設により計画中新設フィールドの対応を核とする英語科目の充実を図る。
	達成指標	フィールドに対応した英語科目の体系化達成
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	学習成果を学術論文出版、国際会議研究発表などを通じて示す。
	年度目標	継続して IIST 学生の発表論文リストを作成する。IIST 学生の研究成果発表の機会を設ける。
	達成指標	刊行・発表論文数
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	研究能力レベルの高い学生を受け入れると共に定員を恒常的に確保する。
	年度目標	定員充足を達成しつつ、昨年度策定したガイドラインに従い、丁寧な応募前事前マッチングにより優秀な学生を選別する。
	達成指標	定員充足率、入学後の研究成果
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	英語による講義・研究指導を担う教員の割合を増やす。
	年度目標	教員へのヒアリング等を通じて英語対応科目 (IIST 学生からの受講希望により英語対応に切り替える) を拡充する。
	達成指標	英語講義対応教員数
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させる。
	年度目標	キャリアセンターと連携し組織的なキャリア支援の仕組みを検討する。
	達成指標	進学・就職率
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	研究成果のグローバルな発信及び優れたグローバル人材を輩出することにより社会貢献を果たす。
	年度目標	教育内容・研究指導を充実させ優れたグローバル人材を輩出する。
	達成指標	刊行・発表論文数、博士進学数 社会のグローバル化を担う人材輩出数
<p>【重点目標】 留学生の学びのニーズが高い新規フィールド (インテリジェントロボティクスフィールドおよびデータサイエンスフィールドいずれも仮称) の新設を目指す。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p>		

※注1 回答欄「はいいいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

IIST に認められた増コマを有効に活用し、英語対応科目の統廃合を行うことにより系統的な授業カリキュラムを構築する。運営委員会及び必要に応じて特設委員会を設け研究科、専攻横断的な検討を進める。

【2020 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

IIST の教育課程・教育内容では「既存の 6 つの横断的学びのフィールドを見直し」を掲げ、「留学生の学びのニーズに対応するインテリジェントロボティクスフィールドおよびデータサイエンスフィールドの新設し、両フィールドを研究科横断的とした特色ある総合的な学びの環境を提供する」という目標設定は、極めて重要であり高く評価できる。教育目標における「IIST 科目の統廃合、新設により計画中的の新設フィールドの対応を核とする英語科目の充実を図る」という年度目標も評価に値する。

学生の受け入れに関して「研究能力レベルの高い学生を受け入れ、恒常的な定員確保に向けて応募前事前マッチングにより優秀な学生を選別する」という活動は適切な目標である。教員・教員組織の「英語による講義・研究指導を担う教員へのヒアリング等を通じて英語対応科目を拡充する」や、学生支援の「学内外の奨学金、学内 TA、RA などの経済支援、留学生のニーズにあったキャリア支援を充実させるために、キャリアセンターと連携し組織的なキャリア支援の仕組みを検討する」という目標も評価できる。

【大学評価総評】

総合理工学インスティテュートにおける大学院教育のグローバル化推進および教員・教員組織は適切であり、研究成果の発信も滞りなく行われていると判断する。学生の意見を反映する仕組みを早急に確立する必要があるとの評価結果に対し、IIST 在学学生を対象に授業・生活アンケートを実施し、その結果を運営委員会で共有し、教育・研究環境の改善にむけた PDCA サイクルを仕組みとして確立する活動は高く評価できる。科目の充実については、既存の学びフィールドを見直し、需要の高いフィールドの新設を検討するという目標設定に対し、インテリジェントロボティクスフィールド新設検討委員会を IIST 運営委員会内に設置し、フィールドの整備をスタートさせたことを高く評価する。一方で、データサイエンス分野については進捗がないため、今後の進展を期待したい。

「機械学習」「ニューラルネットの理論と応用」「無線センサーネットワーク入門」「デジタルシステム設計」「先進経営科学特論」を新設し科目整備を進めたことを評価する。発表論文を整理、リスト化した結果、101 件のジャーナル論文、学会発表を確認し、在学学生の研究レベルの高さが証明できたこと、特に 3 名の博士課程学生が博士号を取得したことは評価に値する。留学生の入学時研究能力のガイドラインを策定、修士課程にも同様のガイドラインを策定し、研究能力の高い学生を受け入れ、かつ恒常的な定員確保可能としたことを評価する。英語講義・研究指導を担う教員増という目標に対し、国際化専任教員を 1 名採用したことを評価する。既存の 6 つの横断的学びのフィールドを見直し、留学生の学びのニーズに対応するインテリジェントロボティクスフィールドおよびデータサイエンスフィールドの新設し、両フィールドを研究科横断的とした特色ある総合的な学びの環境を提供するという目標は極めて重要であり高く評価できる。以上、IIST の自己点検・評価活動は全般的に適切であると判断できる。2019 年度末報告の改善策や今年度の目標を踏まえた、今後の進展を期待したい。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。